
番外編Night Class2-A【Pandora's Box】

琴瀬 裕依

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

番外編Night Class 2 - A【Pandora's Box】

【Nコード】

N7502U

【作者名】

琴瀬 裕依

【あらすじ】

お久しぶりです、ことせゆえ琴瀬裕依です。

現在PC修理中の為、別のIDで登録しております。

本編【Night Class 2 - A】のほうでは今続きを書くことはできないので、しばらくの間は【番外編Night Class 2 - A】執筆しますので、よろしくお願いします。

皆様のご理解とご協力をお願いします

Night Story 1

12月25日：聖なるクリスマスの日。

どこもかしこもクリスマスのイベントだらけで大賑わいのフォーリー・タウン。

2人きりの家の中で過ごす恋人たち。

そんないいムードの中、厄介な事件に巻き込まれることになるとは思ひもしなかった…

【ナイトスクール聖夜学園】

虐待、病気、不慮の事故等の理由で、100%の子供たちがこの学園でふと現れることの多い学園。

いつもこの世界に戻れるかはわからない。

でもそんなことは気にせず、いろんな仲間たちと一緒に勉強したり、屋上で綺麗な星の流星群眺めたり、とにかく自由な学園。

そんな聖夜学園中等部：セカンド2nd ブラッドBlood タイプType A 干Clack ラスss、通称2・Aの日常はというと…

「ねーねー、今人気モデルの子、すっごい可愛くない??」

「あゝ知ってる！可愛いよね〜」

「バロン、この授業抜け出してさ、フォーリー・タウンへ行かねえか？」

「ああ〜、クリスマスイベントがあるんだっけ？」

「そうそう！ブライアン、お前らも行かねえ？」

「もちろん、行くぜ!!」

「オレはあとで行くぜ」

「ああ、そう。わかった」

「フィシア〜！」

「何？てか、今授業中でしょ？」

「そうだけど…」

「ん？さっきの元素のことかわからないなら教えてられるが…」

「ち・が・う！リチャードが今日お休みでつまんないの！」

「そつちかい！！」

まだ2時間目の理科の授業だった。

つまらぬ話についていけず、まわりの子たちとおしゃべりし始めた。当然、教師だつて黙つてはいられません。

「お前ら、今授業中だろ！！集中しろ、授業終わったら勝手に下町へ行け！途中抜け出すのは許さん！！」

理科の教諭であり、2 - Aの担任、ベイチャー・ヴェネル・ディカムは怒鳴つた。

「ええ〜〜〜つ」

「ええ〜じゃねえよ！今出た元素は今度のミニテストで出題するぞ！！」

と、渋々生徒たちは前を向いて勉強し始めた…しかし、

「あの、今日…レイエスさんは??」

ある一人の生徒がもじもじと話し始めた。

「あれ？そういや、今朝見てないなあ…」

「レイエスのやつ、もしかして寝坊とか？」

「いや、ズル休みかもしんねえぞ!？」

「いや、あいつは【用事】があるとか言つて、朝から星界評議会ルーンに向かつた」

ベイチャーは重い口でみんなに伝えた。

- - レイピア・レイエス

サターンロザリオ

主人公であり、紫色の十字架【土星十字架】の所持者になった少女。

3泊4日のハワイ修学旅行の為、ハワイ行きの便がバードストライクに遭い、後頭部を強く打ってしまい、そのまま意識不明となった。今はこうして仲間たちと一緒にどんちゃん騒ぎしたり、授業でわからないところは自ら質問しに行ったりする元気で活発であり、努力家な子だ。

彼女は今、【星界評議会ルーン】という大聖堂みたいな場所で会議をしていた。

「…わかっていると思うが、ここ数日被害が多発している。原因は不明だが…何か黒い液体みたいなのを残して消え去っている」

「黒い液体…？」

黒服の女性がそのビンの中に入っている【黒い液体】を差し出した。

「これです。まだ調査中ですが」

冷たい目で彼女たちを見つめ、無表情で話を続けた。

「現在、マスター・ゴレイアス様が不在の為、指示することができませんが、ぐれぐれも皆様…何かあった場合ご報告お願いします」

『了解！』

「質問、いいでしょうか？」

返事をした後に、すらりと伸びた細い腕…レイピア・レイエスが手を上げていた

「はい、何でしょうか？」

「その【黒い液体】と、被害の多い場所はどこでしょうか？」

「……………珍しいわね、あなたがそんなこと言うのは…いいでしょう
黒服の女性は【黒い液体】と地図、報告書などレイピアに手渡された。

「ありがとうございます。では、もう出ていいのですか？」

「構いません。止める理由などありません」

「了解」

返事と同時にこの場所をあとにした。

「おいおい、レイピア一人で大丈夫なのかよ？」

「落ち着けリオン。あいつはもう一人の裏の人格を持っているから」

「フェニックス！」

「だったら…お前一緒に捜査すれば？我は別に止めはしないがな」

「貴様あ！！！！」

フェニックスに殴りかかろうとしたその時、黒髪の少女がリオンのみぞおちにクリーンヒットを食らわせた。あまりにも激痛でその場で膝をついた。

「やめないか、リオン！！」

「ぐ、へ…。ミゼル…まだいたのか？」

「何？私がここにいちゃいけないわけ？」

「別に…」

「ねえ、あの子…レイピアとか言ってたわよね？新人なの？」

「準2級のドラゴン2体相手に彼女ひとりで倒したって、噂だ」

「ふうん…面白い子じゃない。気に入ったわ！私、レイピアって子に挨拶してくる」

上機嫌で黒髪の女性…ミゼルは大聖堂をあとにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7502u/>

番外編Night Class2-A【Pandora's Box】

2011年10月9日10時26分発行